

田坂広志「風の言葉」  
これから知識社会で  
何が起こるのか

序章

知識社会の「次なる常識」とは何か

これから知識社会で何が起ころのか

目次

序章

知識社会の「次なる常識」とは何か

第1章

知識社会で活躍する「人材」とは何か

第2章

知識社会で成長する「企業」とは何か

第3章

知識社会で到来する「市場」とは何か

第4章

知識社会で成功する「事業」とは何か

終章

これから知識社会で何が起ころのか

序章

知識社会の「次なる常識」とは何か

## 世の中に溢れる「常識」は本当か

これから、いかなる社会がやってくるのか。

この問いに対して、多くの方々が、こうお答えになるのではないのでしょうか。

これから「知識社会」がやってくる。

たしかにその通りです。

いま、多くの識者が、そのビジョンを語っています。

そして、多くの新聞、雑誌、書籍が、この知識社会の到来について語っています。では、次の問いに対しては、どうお答えになるのでしょうか。

その「知識社会」においては、何が起るのか。

おそらく、この問いに対して、テレビや新聞、雑誌や書籍などの議論に耳を傾けている方ならば、次のような答えをされるのではないのでしょうか。

- (1) 知識社会では、高度な「専門知識」を身につけた人材が活躍する。
- (2) 知識社会では、企業内での「知識管理」が経営の重要な課題となる。
- (3) 知識社会では、先端技術を用いた「高付加価値」の商品が市場で売れる。
- (4) 知識社会では、創造性に溢れた「起業家」が新事業を生み出していく。

たしかに、これらのことは、知識社会の「常識」として、しばしば語られています。そして、我々も、ごく自然にこれらの「常識」を受け入れ、知識社会では、こうしたことが起ると考えています。

しかし、最初に、大切なことを述べておきましょう。

これらの「常識」は、すぐに古くなります。

### 「常識」が急速に古くなる時代

では、なぜ、これらの「常識」が、すぐに古くなるのか。

「変化の激しい時代」だからです。

それは、「ドッグ・イヤー」という言葉に象徴されています。

犬の一年は、人間の七年に匹敵する。

すなわち、現代は、過去の七年で起きた変化が一年で起きる時代であり、企業や市場や社会が、急激なスピードで変化していきます。

そして、そのため、

これまで「常識」と思っていたことが、

これからは「常識」ではなくなります。

「常識」が、すぐに古くなってしまいます。

では、どうすればよいのでしょうか。

「その先」を読むことです。

そして、

「新たな常識」を身につけることです。

時代の変化の「その先」を読み、

その変化の結果やってくる企業や市場や社会の姿を予見し、

そこで求められる「新たな常識」を、いち早く身につけることです。

では、なぜ、「新たな常識」を身につけなければならないのか。

「競争の激しい時代」だからです。

これから我が国では、「構造改革」が進み、「規制緩和」や「市場開放」が進むため、すべての分野で、市場競争が激化していきます。

そのため、「その先」を読み、「新たな常識」を身につけ、競争相手を「差別化」しなければ、市場競争に勝てないのです。

現在の「古い常識」に囚われ、競争相手と同じことを考えていては、「差別化」ができず、市場競争で優位に立てないのです。

それは、個人においても、企業においても、さらには官庁においても、同様です。

これからの時代は、個人にも、企業にも、官庁にも、

「戦略思考」が求められる時代です。

そして、時代の「その先」を読むこと。

それが、「戦略思考」の第一歩なのです。

### 「古い常識」を捨て「次なる常識」を身につけよ

これから知識社会が到来します。

そして、その知識社会が急速に変化していきます。

その変化の速さと激しさのため、これからの時代には、いま世に溢れている「知識社会の常識」が急速に古くなり、

「新たな常識」が求められるようになります。

では、その「新たな常識」とは何か。

これから、いま知識社会について語られている様々な「古い常識」を取り上げ、それぞれ、その先にやってくる「新たな常識」について述べていきましょう。

しかし、「この序章の最後に、

もう一つ、大切なことを述べておきましょう。

ここで言う「新たな常識」とは、英語で言えば、何か。

「New Common Sense」

そうではありません。

「Next Common Sense」じゃ。

すなわち、「新たな常識」とは、「次なる常識」なのです。

それは、単に「古い常識」に代わって、

一つの「新たな常識」が生まれてくるわけではありません。

これからの時代には、企業や市場や社会の急激な変化のなかで、次々と「常識」が変わっていくのです。

だから、「新たな常識」とは、「次なる常識」に他なりません。

では、その「次なる常識」とは何か。

早速、その話を始めましょう。

この「風の言葉」は、  
2003年に『これから知識社会で何が起るのか』として、  
東洋経済新報社から出版されました。

これから知識社会で何が起るのか

序章	知識社会の「次なる常識」とは何か
第1章	知識社会で活躍する「人材」とは何か
第2章	知識社会で成長する「企業」とは何か
第3章	知識社会で到来する「市場」とは何か
第4章	知識社会で成功する「事業」とは何か
終章	これから知識社会で何が起るのか

## 田坂広志 略歴

1951年生まれ。1974年東京大学工学部卒業。1981年東京大学大学院工学系研究科修了。工学博士。同年民間企業入社。

1987年米国シンクタンク・バテル記念研究所客員研究員。

1990年日本総合研究所の設立に参画。民間主導による新産業創造をめざす「産業インキュベーション」のビジョンと戦略を掲げ、10年間に民間企業702社とともに20のコンソーシアムを設立、運営。同社技術研究部長、事業企画部長、取締役・創発戦略センター所長を歴任。現在、日本総合研究所フェロー。

2000年4月多摩大学教授に就任。現在、多摩大学・大学院教授。

2000年6月シンクタンク・ソフィアバンクを設立。同代表に就任。

2001年10月個人サイト「未来からの風」を開設。毎週、メッセージ・メール「風の便り」を配信し、インターネット・ラジオ「風の対話」を放送する。

2003年7月ソーシャル・アントレプレナーを支援する「社会起業家フォーラム」を設立。同代表に就任。( <http://www.jsef.jp> )

現在、上記の活動に加え、情報、流通、金融、教育、バイオなど、各分野の企業の社外取締役や顧問を務める。

個人メールアドレス [wind@hiroshitasaka.jp](mailto:wind@hiroshitasaka.jp)

個人サイトアドレス <http://www.hiroshitasaka.jp>